

群馬県におけるスグリ *Ribes sinanense* の分布と現状

大森威宏（群馬県立自然史博物館）

スグリ *Ribes sinanense* F.Maek.は甲信地方とその周辺に固有なユキノシタ科（APGⅢ分類ではスグリ科）の落葉低木である。1987年に発行された群馬県植物誌改定版によると、スグリは県南西部に位置する多野郡上野村に分布することが知られている。このほか、群馬県立自然史博物館の収蔵標本からスグリは県北西部の吾妻地域にも分布することが知られている。上野村ではスグリはシカの食害によって絶滅のおそれが高まっており、2012年に改訂された群馬県レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類（VU）に評価されている。本研究では2009～2010年に吾妻郡、2012～2015年に上野村で行った現地調査から、群馬県内のスグリの分布域、生育立地、株数と食害の現状を正確に把握することを目的とした。

スグリは県南西部に位置する多野郡上野村の7地点と吾妻郡長野原町及び嬭恋村の2地点から確認された。このほか標本情報を加えると群馬県の既知のスグリの生育点数は上野村（8地点）、嬭恋村（2地点）、長野原町（1地点）の計11地点で生育地点の海拔は960～1570mの範囲にあった。上野村のスグリ生育地7地点中3地点は下部谷壁斜面で、2地点は岩屑が堆積した谷底であった。これに対して吾妻郡の2地点はいずれも湿地林や湧水に対応する湿潤なテラスに位置していた。上野村の2地点は谷壁斜面を開削した林道が支谷と会合する場所の湿潤な平坦面で、人工的に湿潤なテラス状の地形が作られた場所であった。

現地調査を行った7地点の上野村のスグリの生育地点のうち4地点で生育株数が1株のみだったのに対して、地点あたりの最大株数は13株で、10株以上生育する地点は1地点のみだった。上野村のスグリ生育地6地点でシカの食害が確認され、3地点のみで開花が確認された。一方長野原町では4株が確認されたのみであるが、樹高1.5mに達する複数の萌芽幹からなる開花株からなっていた。嬭恋村の生育地でも樹高1.5mに達する開花株があり、110株が確認された。吾妻郡の生育地ではシカによる食害は確認できなかった。

群馬県のスグリは南西端の上野村と北西部の吾妻地域に分かれて分布し、200株程度が現存していると見積もられる。上野村ではシカの侵入が困難な岩屑地の谷底以外に開花個体が確認できず、種子繁殖に支障をきたしていると考えられる。このことから定性評価による県RDBランクVUは、絶滅リスクを過小評価していると考えられる。特に上野村では、現存する食害個体が枯死すると、壊滅的な状況に陥る可能性が高い。

謝辞：上野村における調査の一部は群馬県良好な自然環境を有する地域学術調査（北沢自然環境保全地域調査及び梅峠地域調査）、吾妻郡内での調査は群馬県絶滅のおそれのある野生動植物種調査として行われた。調査事務局の群馬県自然環境課には感謝の意を表します。



群馬県内におけるスグリの分布地点
●：現地確認、▲：標本による確認